

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係員

復命書

令和5年2月8日

三沢市議会議長 堀 光雄 殿

総務文教常任委員会

委員長 佐々木 卓也

副委員長 田嶋 孝安

委員 下山 光義

委員 澤口 正義

委員 加澤 明

委員 森 三郎

随行者（議会事務局）

主事 星 佳奈美

令和5年2月1日から2月3日まで、沖縄県石垣市及び竹富町において、当委員会の行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。

記

視察概要－1【沖縄県石垣市】

1 日 時：令和5年2月2日（木）10時00分～11時30分

2 場 所：石垣市役所

3 対応者：石垣市教育委員会 伊波 勇史氏
 前三盛 敦氏
石垣市議会事務局 仲山 慶政氏

4 観察項目：(1) 石垣市GIGAスクール構想「I・プラン」について
(2) 「勇気づけの教育」の推進について

5 観察概要：

(1) 石垣市GIGAスクール構想「I・プラン」について

石垣市では、「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」に基づき、「自立した学習者の育成」を目指した教育活動に取り組んでおり、「I・プラン」の目標として、ICTを効果的に活用することで「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、「自分で考え行動する」自律した児童生徒の育成を挙げている。

学習の主体は子どもであり、教師主導の学びから学習者主体の学びへと移行し、一人一台端末を所有し自ら学習を調整する。

学校へのサポートとして、「ICT活用教職員研修」や「学校ICT支援員」の配置等を行っており、学校ICT環境も整え、ICTによる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。

(2) 「勇気づけの教育」の推進について

石垣市は全国でも圧倒的に貧困率が高く、また自己肯定感も全国で最も低いという特徴があった。自己肯定感が低い人間は自分のことも信用できないが周囲のことも信用ができず、授業や学校への信頼感も生まれない。

勇気づけの教育というのは認知能力（数値で表せる能力、いわゆる学力）よりも非認知能力（自己や社会性に関わる心の力、セルフコントロール等生きる力）を上げていく教育方法で、教師が子どもたちの内面的なよさや可能性を見つけ、褒めることで、自尊感情・自己肯定感・自己有用感が高まる環境を整えていく。

令和4年時点の成果として、令和元年と比較し児童生徒の自己肯定感は大幅に増加しており、勇気づけの教育は教育現場だけではなく家庭においても推進している。

6 各委員からの質疑

(1) 石垣市G I G Aスクール構想「I-プラン」について

加澤委員 Q : タブレットの持ち帰りに保護者が反対している学校が1校あるとのことだったが、何故反対しているのか。他校が持ち帰っている中、環境の格差が生まれるのではないか。

A : タブレットを何に使うのか、理解を得られていない。

Q : 自分で科目を選んで学習できるというのは素晴らしいが、きちんと児童生徒が学習できているのかを把握するための注意点等は。

A : 最初は中々うまくいかなかったが、タブレットによる学び方をしっかり教えながら時間をかけて対応している。都度生徒への声掛け等を行っている。

下山委員 Q : I C T を用いた授業内容は各校画一的なものなのか。

A : 「I-プラン」において授業例は示しているが、各校の実情に応じて、実際の授業内容はそれぞれの学校に任せている。

Q : 教える側である教師の能力も重要なとなるが、月に1回の I C T 研修会で十分なのか。

A : 今年度の I C T 研修会は情報担当の教師に対して行った。令和5年度は対象を広げて行いたいと考えている。また、現在は I C T の活用率や授業内容に差があるため、今後は授業例を教育委員会として示し、しっかり I C T を活用した教育を推進していきたい。

田嶋副委員長 Q : Microsoft surface、iPad を使う理由は何か。

A : 石垣市は地域によってインターネットの接続が安定しない場所があり、文科省から示されている Google の Chromebook はネットありきの端末なので、安定性を担保できない。Surface と iPad であれば、ある程度は端末に取り込むことができ、ネット環境がなくても課題に取り込むことが可能。

Q : オフラインでの利用ということは、児童生徒がタブレットに記入したものを教師側のタブレットで採点等を行うことは可能か。

A : 家に持ち帰りオフラインで入力し、Wi-Fi 環境が整っている学校で教師のタブレットと同期している。

佐々木委員長 Q : タブレットを配付することで、SNS を使ったいじめ等は発生していないか。

A : 主要 SNS にはアクセスできないように制限をかけている。いじめ等の情報提供があった際には都度対応している。また、家に持ち帰った場合、22時から5時までの間は使用不可の設定となっている。

(2) 「勇気づけの教育」の推進について

下山委員 Q:「勇気づけの教育」とは命がけで何かに取り組むことではなく、「あと一歩」の力を養う教育。非常に共感できる。資料に記載されている「支持的風土」とはどういうことか。

A:子どもたちがお互いを尊重する、協働や協調という意味合い。

加澤委員 Q:実現できれば非常にすばらしい施策。ただ、この教育に乗っていけない子どもたちがいた場合、学校や教育委員会の対応は。

A:全面的に「勇気づけの教育」を市として押し出しているので、好ましくない教育がされた場合に各校の校長も指導をしやすくなっている。児童生徒の自己肯定感を下げるような問題のある教育はかなり減っている。

Q:精神障害等、少数派の子どもたちも取りこぼさないような施策に発展させることも重要である。

A:沖縄では戦後の貧困が今に至り続いている。それが負のループを生み出している。自律できる子どもたちに成長させることが一番重要。自分に自信のある子どもたちが、将来やる気のある人間となって町づくりを担ってほしい。

7 観察の様子と議場での集合写真（石垣市役所）





視察概要－2【沖縄県竹富町】

1 日 時：令和5年2月2日（木）13時00分～14時30分

2 場 所：竹富町役場

3 対応者：総務課 大城 茂智氏

4 観察項目：庁舎整備事業について

5 観察概要：

・庁舎整備事業について

竹富町においては、著しく老朽化した庁舎の建替えにあたって、将来においても安全・安心な行政サービスを提供するため、これまで以上に効率的かつ効果的な事業にする必要があると考え、民間事業者の自由な発想による創意工夫を活かしたPPP手法による公共事業の導入を推進し、行政サービスの向上、公共施設等の維持管理に要する費用の削減等を目的に、民間提案事業として推進した。

令和2年2月に旧庁舎解体工事に着手し、令和3年3月に新庁舎工事に着工、令和4年3月に新庁舎工事が完了し5月から新庁舎供用が開始された。

旧庁舎は建築から50年以上と老朽化が進んでいたのに加え、耐震性能の不足や危険家屋化等の問題も指摘されていた。新庁舎整備にあたり、耐震性、耐火性強化、さらに庁舎機能と併せて商工会や観光協会等町関係機関・団体も併

設されている。また、竹富町が9つの離島からなる特徴から、石垣島外の住民が石垣市内で宿泊を必要とする際に利用できる簡易宿泊施設も整備し、より行き届いた住民サービスが期待されている。

竹富町の人口は4,280人で、その内西表島の人口が約2,400人と半数以上を占めているが、他の島々の利便性を考慮した結果、新庁舎も旧庁舎と変わらず石垣市内に整備された。

6 各委員からの質疑

加澤委員 Q：入札に参加した業者は何社ほどか？

A：4社程度。

森委員 Q：坪単価2,476,880円とのことだが、一般住民が家を建てる場合の坪単価はどれくらいなのか。

A：坪単価1,000,000円程度。全部コンクリート製であるのに加え、材料の輸送費も上乗せされることが理由である。

7 観察の様子と議場での集合写真（竹富町役場）

